

# 大戸川ダムが整備されていた場合の治水効果について

(平成25年9月)台風18号

- 台風18号により、大戸川からの越水を主な要因とし、**浸水面積約86ha、浸水戸数60戸**の被害が発生しました。
- 大戸川ダムが整備されていたとすれば、浸水被害が発生した堂村橋(大津市)付近では**約1.4mの水位を低下**させる効果があり、**浸水面積は約9割減少、浸水戸数は約7割減少**したものと推定されます。

## 大戸川位置図



国土地理院発行1/200,000地勢図(京都及び大阪、名古屋)に加筆

## 台風18号における浸水範囲



※上記浸水範囲は現地における痕跡調査の結果によるものです。

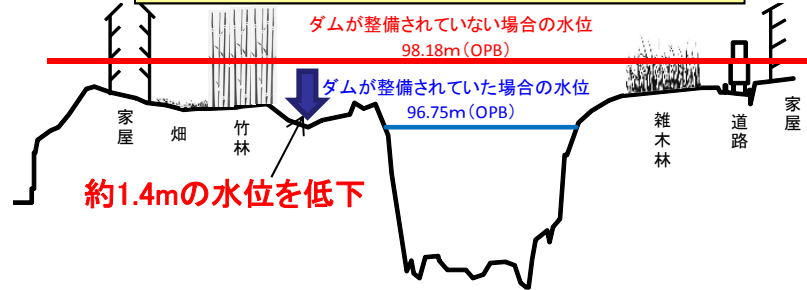
※本資料の数値等は速報値であるため、今後の詳細調査の結果により変更となることがあります。

※大戸川ダムについては、現在、予断を持たずに検証手続きを進めているところです。この資料は、平成25年台風18号洪水において、大戸川ダムが整備されていた場合の状況について説明を求められたことに応じて作成したものです。

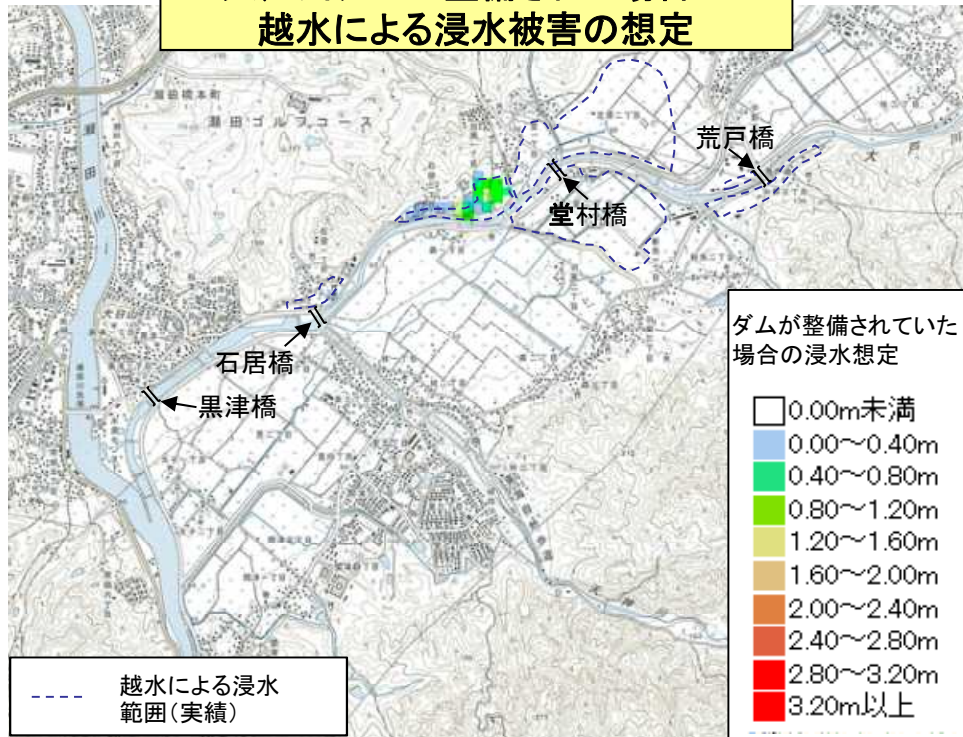
# 大戸川ダムが整備されていた場合の治水効果について

(平成25年9月)台風18号

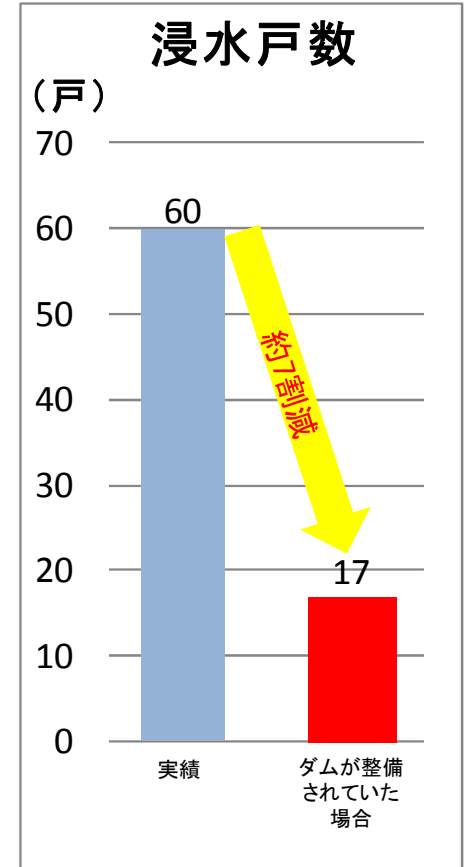
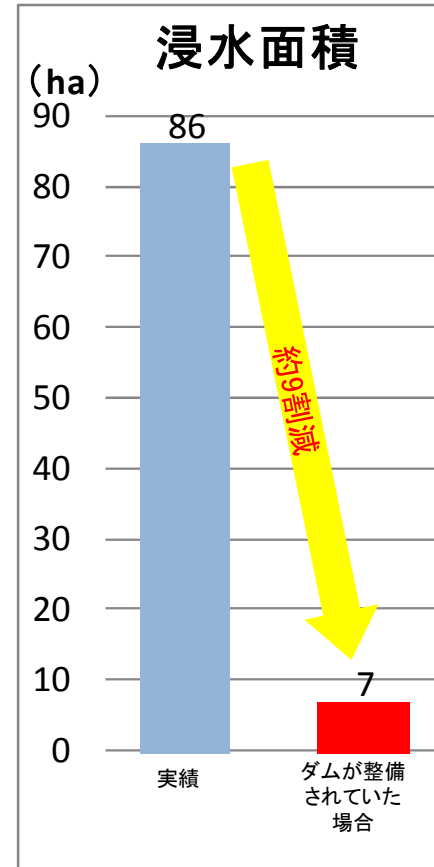
## 大戸川ダムが整備された場合の水位低下効果(堂村橋付近)



## 大戸川ダムが整備された場合の越水による浸水被害の想定



## 大戸川ダムが整備された場合の越水による浸水面積・浸水戸数の想定



※実績の浸水面積及び浸水戸数については内水による浸水も含まれています。

※計算結果は速報値であり、今後の精査によって変更となることがあります。

※被害の想定は、台風18号の実績降雨をもとに、大戸川ダムが整備されていたとして氾濫シミュレーションを行って計算した結果です。

※上記浸水被害には、支川流入部(石居橋上流左岸部)からの逆流等による浸水は含まれていません。

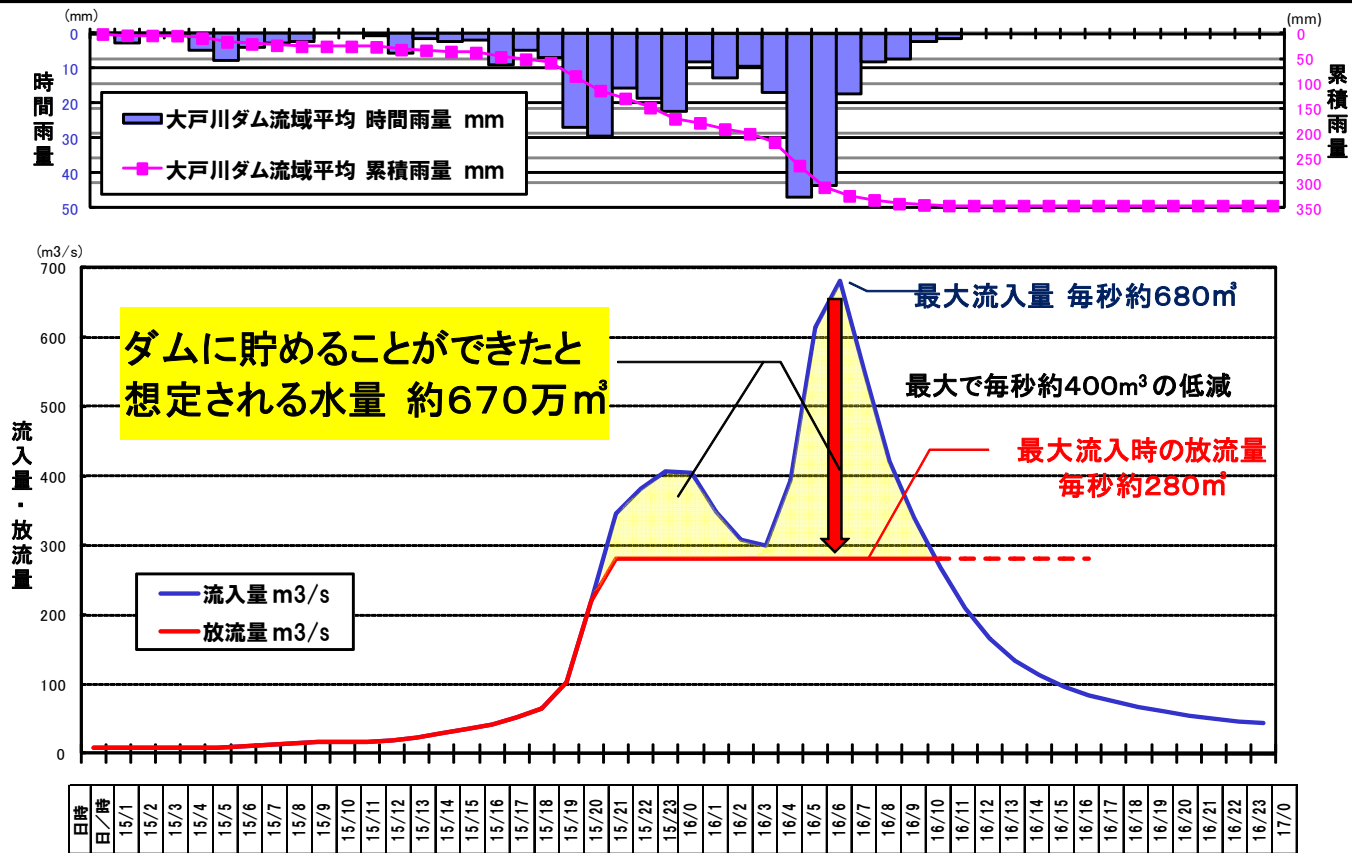
※実績の浸水戸数については罹災申請及び現地調査結果によるものです。

※なお、今回の洪水は堤防からの越水により浸水が生じたが、幸いにも破堤には至らなかったため、氾濫シミュレーションにおいては堤防の決壊を見込んでいません。

# 【参考】洪水調節図(大戸川ダムが整備されていた場合)

(平成25年9月)台風18号

- 台風18号により、大戸川ダムの流域では、1時間雨量で最大47mm、降り始めからの総雨量は344mmを観測しました。なお、黒津橋地点では流量観測で、最大毎秒740立方メートルを観測しています。
- 大戸川ダム建設予定地点の最大流入量は毎秒約680立方メートルであったと推定されます。
- 大戸川ダムの計画では最大放流量を280立方メートルとして、下流の河川へ流す流量を最大で毎秒約400立方メートル低減しました。この場合、約670万立方メートル(京セラドーム大阪約6杯分)の水をダムに貯留することができたと推定されます。



※本資料の数値等は速報値であるため、今後の詳細調査の結果により変更となることがあります。